

注射用レザフィリン®100mgを投薬される
局所遺残再発食道癌の患者様へ

光線力学的療法 (PDT) 施行の手引き



LASERPHYRIN®

監修

京都大学大学院医学研究科
腫瘍薬物治療学講座 教授

武藤 学

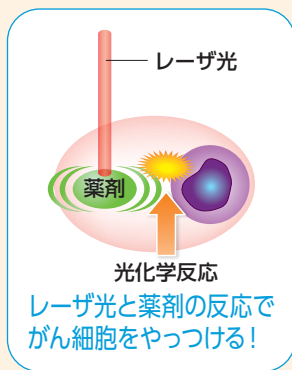
Meiji Seika ファルマ株式会社

光線力学的療法(PDT)とは？

光線力学的療法=PDT (Photodynamic Therapy) とは、**腫瘍に親和性のある光感受性薬剤**とレーザー光によって引き起こされる反応を利用した局所的な治療法です。

治療方法

- ①薬剤を静脈内注射します。
- ②4～6時間後に内視鏡下でレーザー光を照射します。翌日に内視鏡観察を行い、必要に応じて追加のレーザー光を照射します。
- ③レーザー光と病変に取り込まれた薬剤の反応によりがん細胞を壊死させます。



腫瘍に親和性のある光感受性薬剤って何？



がん細胞に取り込まれやすく、光に反応しやすい薬剤です。
投与するとがん細胞に集まりやすいため、正常組織への影響は軽減されます。一方、光感受性を高める作用があるため、投与後に光線過敏症(日焼けのような症状)に気をつける必要があります。

特 徴


腫瘍を選択的に壊死させるため、他の治療法に比べ、正常組織への影響が少ない。

留意事項

薬剤の性質により光線過敏症を起こすことがあるため、光線力学的療法施行にあたっては次の事項を守ってください。



- 投与後2週間は、直射日光を避け、明るさを制限した室内で過ごす。
- 投薬前後には、光線過敏症を起こすことがある食品の摂取を避ける。

 予防法参照 (P3~5)

PDT後の症状への対策

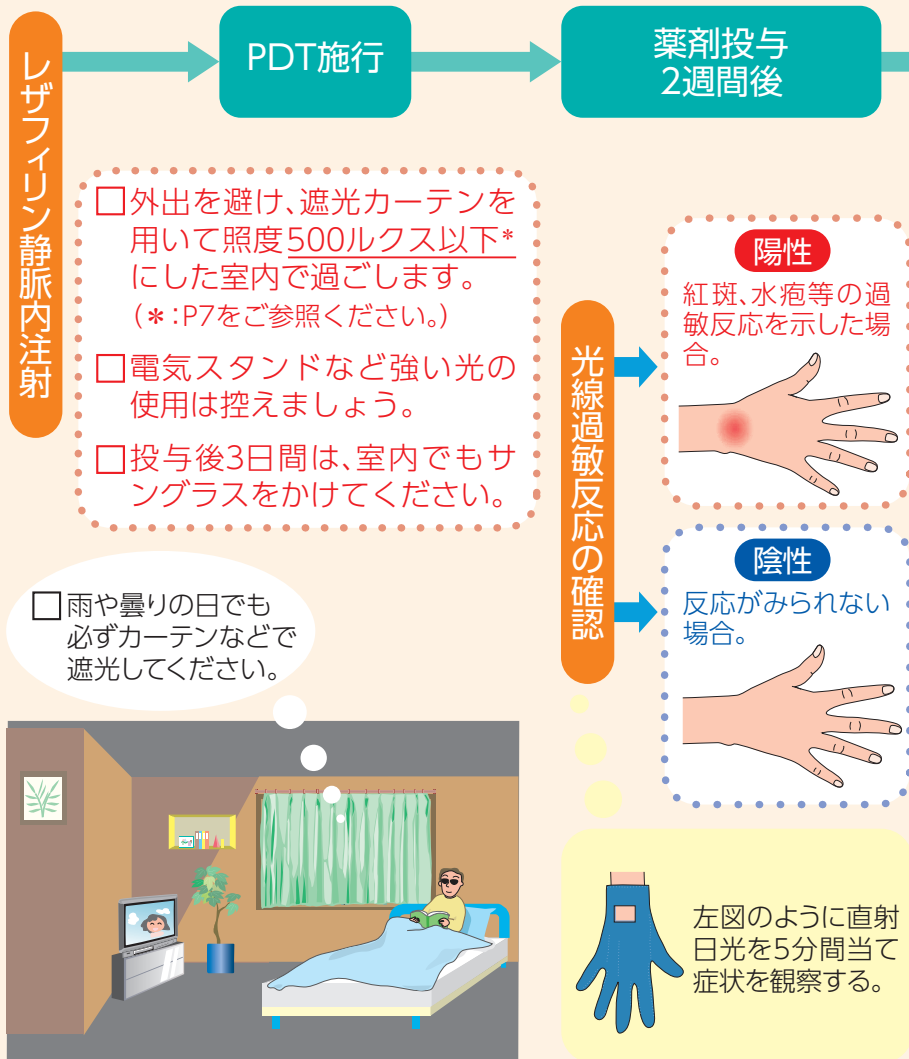
レーザー光照射後は、食道の痛みや食べ物・飲み物の呑み込み難さを感じることがあります。主治医と相談しながら症状への対応をしてください。

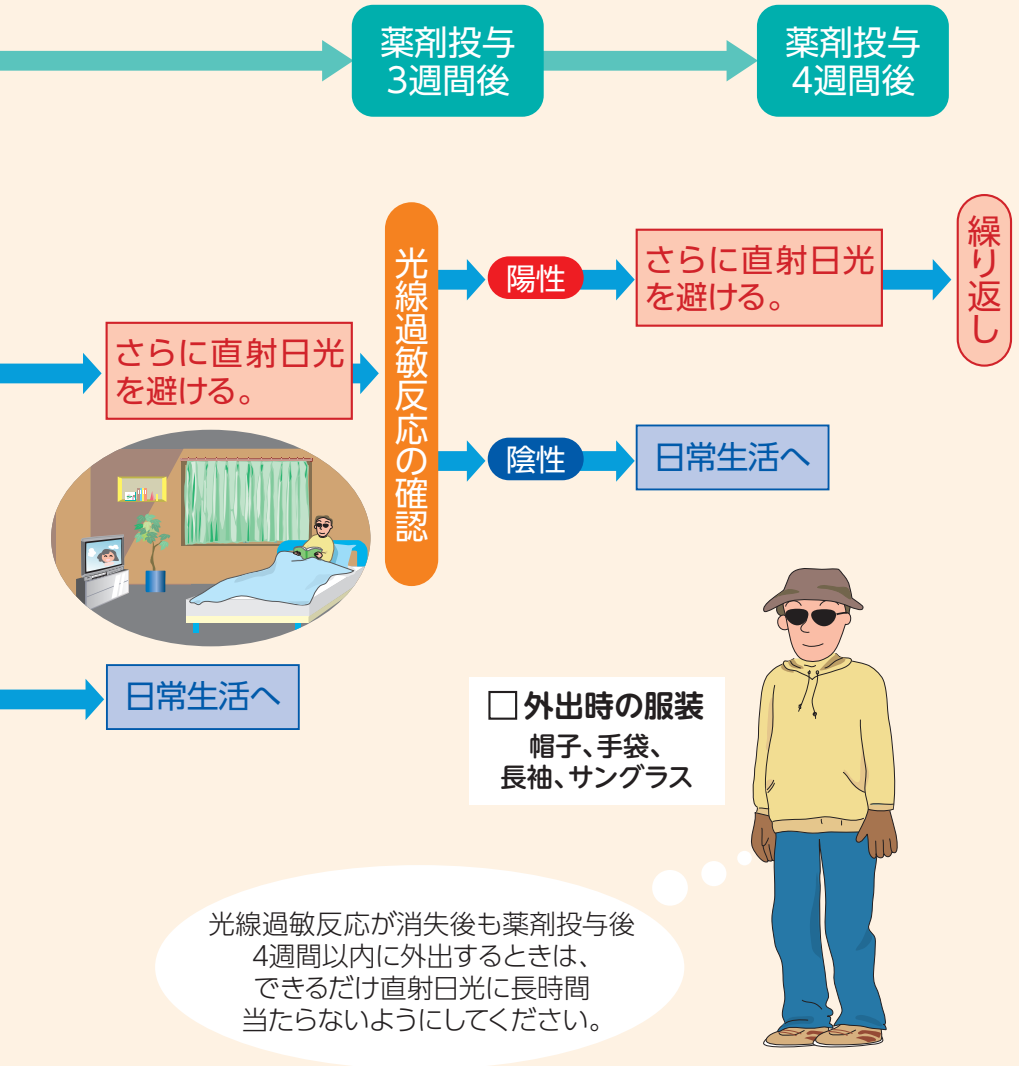
Q 光線過敏症とは？

A 日焼けに似た症状です。
日光や明るい光に当たることにより、日焼けに似た症状（発疹、紅斑、水疱、むくみなど）がでることがあります。
そのような場合には、速やかに主治医に相談してください。

光線過敏症を予防するために・・・

光線過敏症を予防するために光線力学的療法(PDT)施行にあたっては以下の手順にしたがってください。





光線過敏症を予防するために・・・



投薬前後には次の食品の大量の摂取を避けましょう。

次の食品を本剤投薬前後に大量に摂取すると、**光線過敏症**が強く現れる恐れがあります。



クロレラ
加工品



セロリ



パセリ



ライム



レモン



オレンジ



イチジク



ドクダミ



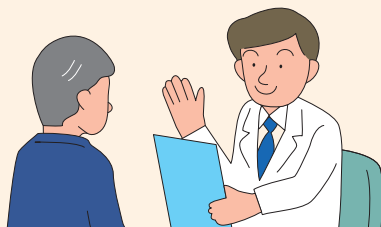
治療前後の飲食について

治療を行う前日や当日には、食事を制限する場合があります。

食事をいつごろまでに済ませておくか、お水やお茶、牛乳を飲んでもよいかなど、治療前の説明をよく聞き、疑問や質問はきちんと主治医に尋ねておきましょう。



治療終了後、いつから、どのようなものを摂ってよいかは、医師の指示に従うようにしてください。



治療終了後の検査結果などによって、食事の内容、開始の時期等を医師が判断します。

Q & A

Q 照度500ルクスの目安は？

A 病院や住宅の照度は、次のように規定されています。

- 病室：75～150ルクス
- 食堂：200～500ルクス
- 一般検査室・診察室・薬局：300～750ルクス
- 手術室：750～1500ルクス

Q 薬剤投与後2週間以内に外出したいのですが…

A やむを得ず外出が必要な際には、主治医と相談の上必ず日が落ちてから移動してください。

Q 光線過敏反応を確認して、結果が陰性なら、かまわず外出できますか？

A 陰性となった後も、投与4週間以内までの外出の際は、帽子、手袋、長袖等の衣類やサングラスの使用によりできるだけ日光を避けてください。

外出時の服装
帽子、手袋、
長袖、サングラス



病・医院名